

## アジア進出ミニインタビュー

## 日東工器 インドネシア拠点開設へ

世界で4位の人口ボリューム2.64億人(2017年)を持つインドネシア。迅速流体継手大手の日東工器も今年度中に拠点開設を予定、シェア獲得を目指している。昨年の社長就任以来、積極的な海外戦略を押し進める小形明誠社長に話を伺った。

——いまなぜ、インドネシアへの進出なのでしょう。

「簡単に言えば、中国・インドに次ぐ人口が何にも変えがたい魅力です。また、弊社のカプラを初めとする製品群は、やはり日本企業

が進出しているところに馴染みやすい。インドネシアも各自動車メーカーをはじめとする日系企業が多い点も見逃せません。また、これから進出される企業で、すでに日本で弊社製品を使って頂いている場合は、また弊社製品を採用して頂ける可能性もありますから」

——商社出身の小形社長個人の、インドネシアに対する印象は？

「インドネシアで日系企業や日本製品は非常にリスパクトされていますので、比較的、参入し易いところであると思います。また弊社

の製品も、日系企業に比べて頂くことにより、いずれは地場メーカーにも採用してもらえるようになるのではないかと考えています」

——アジア圏でのセールス拡大により、生産拠点も変化していくのでしょうか？

「グループの山形工場は操業開始からすでに60年、白河工場は40年が経っています。省力化や自動化を提案する弊社としては、自社工場こそ自動化や機械化を絶対に進めていかなければならない。また、国内の生産拠点はいずれも人手不足が課題となっている。この問題は今後ますます深刻になっていくことから、将来的にはタイ工場がアジア周辺諸国における基幹工場になる可能性もあります」

——今後は積極的な設備投資をされていくのでしょうか。

「正直、米中貿易摩擦による景気の減速感には弊社にも影響を及ぼしています。しかしながら、長期的な視野で鑑みた時、体力のあるいまこそ、将来を見据えた投資をしていかなければならないと考えています」



新製品のマルチカプラ「MAM-A-ZEL型」を手に意気込む小形社長